

高齢社会をよくする女性の会・大阪



事務局：〒540-0038 大阪市中央区内淡路町1-3-11 シティコープ402号
E-mail wabasosaka2024@gmail.com SORA気付
URL https://wabas-osaka.org/



第 121号

2024年4月、住所・メールアドレスが変わりました

2024年4月24日

安全・安心の日々を～元日の震災に想う



代表 植本 眞砂子

私は、10年前から「5年日記」を書いている。一日分は5行、毎朝、前日の内容を体重と歩数、朝・昼・夕食のメニュー、その日あったことと感想などを簡単に記載している。昨年末、もう5年、80歳まで書こうと思い新しい日記（本）を購入した。

元旦の朝、新しいページに、1月の予定などを書き込んだ。翌日の日記は、驚きの記載となった。元旦の午後4時過ぎ、翌日に妹と娘夫婦とランチをするための準備などをボチボチしているときに大きな揺れに襲われた。すぐにテレビは、能登での大地震と津波が来るので、「逃げてください」「逃げてください」の連呼！連呼！だった。（大阪は、震度3だったが、我が家は19階なので、それ以上に感じた）引き続く多くの「余震」と、輪島朝市などの火災被害、数日後に報道された4メートルの海岸隆起、寸断された道路で孤立する集落、今も続く断水、福祉避難所の開設遅れなど報道に触れるたびに心が痛んだ。友人の安否確認もこちらから電話をするのは迷惑ではないかと、間接情報を探りながらのもどかしさも。震源の珠洲市で2003年に原発の計画が凍結されたが、よくぞ建設しないで下さったと感謝。改めて、亡くなられた方のご冥福お祈りし、被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。

災害において、様々な意思決定過程への女性の参画と女性と男性のニーズの違いなどに配慮した対応のため、「防災基本計画」や「避難所運営ガイドライン」等に女性の視点での対策が明記され、子供や若者、高齢の方、障がいのある方、LGBTの方など、多様な方々への配慮をすることとなっている。実際の災害対応で、これらのことが活かされたか、検証が必要です。改めて安心・安全の町づくりを地域の中で心がけていきたい。

目次

安心・安全の日々を～元日の震災に想う	1
私たちのこれからを語り合おう～30年を振り返り未来を語る（会員によるトークセッション）	2～3
森 俊江さん（前事務局長）を悼んで	4
全国大会『報告集』完成・実行委員会を解散しました	5
能登半島地震で被災された方への支援について	5
守ろう！訪問介護、暮らしを支える命綱～年末から4月までの介護保険をめぐる動き～	6
「地域共生ケア」を考える・地域共生ケアネットワークプレフォーラム報告	7
「性暴力と男女不平等社会」国際女性年大阪連絡会50周年の集い報告	8
「異次元の少子化対策を検証する」フォーラム労働・社会政策・ジェンダー	9
研究会だより（介護問題研究会、認知症勉強会、シニアライフ・サポート倶楽部）	10～11
運営委員会だより	11
インフォメーション	12

と き : 2024 年 3 月 2 日 (土) 13:30~16:00 ところ : ドーンセンター 4F 大会議室①

会員によるトークセッション
私たちのこれからを語り合おう～ 30年を振り返り未来を語る会

「全国大会 in 大阪」の全体会・分科会のテーマを今後の活動にどのように展開・反映させればよいかなど、4つのグループに別れて話し合いました。それぞれのグループで話し合われたことを報告してもらいました。

- ① 介護の現状と介護保険のこれから
- ② 地域で支え合おう 私たちが望む地域包括ケア
- ③ 自分の生き方、逝き方は自分で決める
- ④ 介護する人・される人の尊厳を



① 介護の現状と介護保険のこれから

参加者は6名。自己紹介の後に、其々の立場から、大阪全国大会の第1分科会の感想や今後の取り組みについて話し合う。以下出た意見について簡単に報告する。



話し合った内容をテーマごとに発表

- ・大阪の会は「介護の社会化」を求めて発足した。
- ・温かいご飯、清潔な衣類は、人が人である事の人権の保障である。
- ・この大切な生活援助は「女の仕事」とされているのでは？
- ・介護保険の改悪に反対しよう！声を上げよう！実態を訴える活動をしよう！
- ・今回の改定で訪問介護の報酬引き下げには反対！訪問介護事業所の倒産が進むのでは？在宅でヘルパーサービスを受けられなくなるのではないか？

- ・「サ高住」と在宅を訪問するヘルパーは効率からも違う。訪問ヘルパーの移動費の保障が必要。
- ・経済格差が拡大している・・・社会保障費が減るのは問題である。困っている人の声をどう届けていくか？
- ・今後、どこに住むか？我が事として考えたい。
- ・保険外サービスも考えてはどうか？
- ・制度が変遷しすぎる。まずは制度や介護の現状を知ろう！ (岡崎 和佳子)

② 地域で支え合おう

私たちが望む地域包括ケア

グループ分けで3人でのディスカッションになりましたので、大会での分科会の議論を深めるという方向には行かず、それぞれ日頃の思いを話して頂きました。

地域包括ケアというのは単なるシステムではなく、人と人との関わりで、旧来の日本社会で培われてきた互助共助のあり方をいかに実生活に取り入れるかということになりました。

地域で暮らす高齢者を支えるために何をして行けばいいのか、世代間交流や近隣の支え合いが必要で、具体的な事例として私の話

をさせて頂きました。

団地の住人になって20数年になりますが、10年前に一人暮らしになってから、泊まりを伴う留守になるときは、必ず隣人に伝えてから出かけるようにしていますので、予告無しに夜分に灯りがつかない日が2日続いたら、対応して頂けるように依頼しています。近隣では同様の関係性が数件確認されていますので、住みやすい地域だと実感しています。

昔ながらの長屋の住民の関係性が理想なのかも知れません。隣組から町内会まで、顔が見え言葉が交わせる空間で、お互いに依頼も支援もできることをやって行くのが、地域包括ケアでの第一歩ではないでしょうか。

(渡部 梢)

③ 自分の生き方、逝き方は自分で決める

自己紹介をしながら現在の暮らしぶりや介護保険への思いを話しました。

50年前からリュウマチを患い狭心症の持病がある方は、車椅子生活での不自由さ、スーパーでの買い物では買いたい物に手が届かない、出かけるにも車椅子対応があるか必ず確認する必要がある事などを話されました。認知症の夫の介護もありストレスがあるとのことでした。

お一人暮らしの方は何でも一人でしなければならない大変さを話されました。どちらの方も今はヘルパーを頼んでいないとのことだったので、ヘルパーに来てもらったら、少しでも負担を減らしたり何かあったときに対応してもらえたりできるという話をしました。

介護保険については20年近く前、母親の介護をした時に介護保険のお陰で費用面が1割負担で済み、乗り切れた話をしました。しかし今は改悪に次ぐ改悪で施策がかなり変わっているし、病院に入るまでは車椅子をヘルパーに押してもらえるが、病院の中は自分で移動しなければならないなど理不尽なことがまかり通っている。介護保険の現状を正しく理解していく必要があることを確認しました。



小人数のグループだったので、思い思いを存分に話し合う

逝き方についてはピンピンコロリはなかなかできない。ヨタヘ口期を短くして安らかに逝きたいという話をしました。

(蔵谷 香代子)

④ 介護する人・される人の尊厳を

このテーマで皆さんの意見を小グループでしっかり聞くことが出来た。良かった介護やあれはまずかった介護、いろいろあると思うが、本人の意向に沿ったかどうか、ここがポイントだろう。

尊厳ある、とは聞こえはよいが、実際には個人差の大きい対応なのである。

両親の介護はそれなりに終わったが、「プライドが人より数倍も高い夫との今後」を考えると目の前真っ暗・・・

未来へのメッセージとしては、自分が子供に伝えたい内容を次世代へ伝えればいいのか？体験から得た失敗や良かったことを伝えるしかない。介護保険の出来た2000年から24年が経ち蓄積されたノウハウはあるが、ますます人口比がアンバランスになる今後を考えなければならない時、「尊厳」は何より大切なキーワードだ。家族だからといって、良かれと思い、本人抜きで判断してはいけない。判断が不可能な場合でも第三者機関とも相談してほしい。

私は、市販のエンディングノートにいろいろ気になることを書き込んでいる。提案だが、当会が工夫して作成された「パーソナルメモ」のように、「オリジナル未来へのノート」を作成し、尊厳など大事な項目をしっかり記入できるようにするのはどうでしょうか。

(正木 美津子)



故 森俊江さん
1月27日ご逝去
(享年 91 歳)

森 俊江さん (前事務局長) を悼んで・・・

森さん、先に逝ってしまわれるなんて……、とても悲しく淋しいです。私が東京に居を移す少し前にお会いしたのが最後になりましたね。

事務局長として、代表の私を支えてくださった日々を懐かしく思い出し、今更ながら感謝に堪えません。森さんをはじめ、この会の皆さんに出会えて活動をご一緒できたことは、私の活動の原点です。思い出は尽きることなく忘れることはありません。森さん、ほんとうに有難うございました。ご冥福を心よりお祈りいたします。

竹中 恵美子 (元代表)

森さん、最後にお目にかかったのは昨年でしたか…いつも本を送ってくださったり、お手紙だったり。久しぶりにお顔を見ながらおしゃべりできて、本当に楽しかった。お互いの歳を考えれば、一回一回お逢いするたびに「これが最後かも」と覚悟しつつ、いやまだ大丈夫と生きていました。こんなに突然終わりになって悲しいです。とてもとても悲しいです。

「高齢社会をよくする女性の会・大阪」の初期から本当に長く一緒に活動してきましたね。私より歳下だけど、凜とした森さんの存在がいつも心強いものでした。もっともっとお家の話やいろんな話が聞きたかったです。

私は、先日(2月)、思いがけずコロナに罹り入院してしまいました。熱に浮かされたアタマの中に「さようなら、さようなら」という言葉ばかりが浮かんでくるのです。いつお別れの時が来るかなんてわからないものですね。森さん、どうぞ安らかにお眠りください。ほんとにさようなら、森さん!

山田 芳子 (元副代表)

「第 42 回高齢社会をよくする女性の会全国大会 in 大阪」の『報告集』が出来上がり、協賛して下さった森さんにお届けしようと思っていた矢先の訃報でした。

昨年 4 月 23 日、「会」の準備会の時からご苦勞を共にされた山田芳子さん(元副代表)のお宅を森さんと一緒に訪ねて、3 人で楽しいお喋りのひと時を持ったのがお会いした最後になりました。そのとき、「肺がんが見つかったけど、もう年やし積極的な治療はしないで自然にまかせると…」と淡々と話され、自宅療養のあと、最後のひと月は、箕面市のガラシャ病院のホスピスに入所、静かに最期を迎えられたとのこと。森さんらしい最期だと感じ入りました。

森さんからバトンを受け継ぎ、事務局と広報部(会報編集・ホームページ運営等)との二足の草鞋を履いて無我夢中の日々でした。森さんはお会いする度、「よくやってくれている。あなたに後を託して本当によかった」と上手に持ち上げてくださるので、気付けば 17 年間も事務局を預かることに。その私も今年度で事務局長を辞すことにし、大きな節目を感じています。

森さんが事務局長として 12 年間、竹中恵美子・小林敏子両代表を支えてしっかりと会の礎を築いてくださったからこそ、今の「高齢社会をよくする女性の会・大阪」があります。あらためて森さんに感謝申し上げ、心よりご冥福をお祈りいたします。

田代 眞朱子

※ 2 月 20 日、山田元副代表と運営委員有志が森さん宅に弔問に伺い、会からの供花をご霊前に捧げてまいりました。

◆全国大会 in 大阪『報告集』発行しました



報告集の発行を実行委員会で確認し、大会当日、参加者にご案内したところ、90部近い予約申し込みがありました。大会に参加できなかった方、他の分科会のことでも是非知りたいとおっしゃる方、また裏方に徹し、ほとんど参加できなかった実行委員からも『報告集』発行への期待の声が寄せられました。

幸い、(社福)大阪府共同募金会「河原林富美福祉基金」から『報告集』発行に特化した助成金を頂くことができ、発行に向けて弾みがつきました。

発行に当たっては、実行委員有志で報告集編集チームを編成、膨大な量のテープ起こし、すべての登壇者の方々と遣り取りをして、3ヶ月ほどの間に委員は何度も集まり、またメールで校正を繰り返しました。そして自分たちのパソコンで完全版下作成にまで漕ぎつけ、88頁、一部カラーの『報告集』が出来上がりました。

大変な作業でしたが、大半が70代後半の高齢女性のチーム、パソコンを駆使してここまで出来た！との思いは、何ものにも代えがたい財産になりました。また実行委員の“頑張り”を形にして残せたことも良い記念になりました。

◆実行委員会、解散しました

3月23日、最後となる第15回実行委員会をドーンセンターで開催しました。30周年記念事業の一環として、「第42回高齢社会をよくする女性の会全国大会 in 大阪」を準備し、2日間にわたる大会の運営、終了後の報告集作り、と全力で活動してきた全国大会実行委員会は、すべての作業を終了、会計決算報告を確認し、解散しました。

大阪経済大学から会場提供という大きな支援を受けたおかげもあり、いくばくかの剰余金を残すことができました。剰余金は本会計に組み入れ、用途については運営委員会に託すこととしました。

全国大会を無事故で成功裡に終えることが出来たのは、ひとえに当会の大会に懸ける思いを汲んで協力して下さった皆様のおかげと、ここに改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

◆能登半島地震で被災された方への支援について◆

元旦に発生した能登半島地震は、日を追って大きな被害が明らかになり、当会にもできる支援がないか運営委員会で討議した結果、昨年の全国大会に参加して下さった常光利恵さん（男女共同参画を掲げる市民団体の研修会などを主宰する「石川県21ネットワーク」代表）の活動に支援金をお送りいたしました。常光さんから届いたお礼状を下に記し、共有させていただきます。（掲載にあたっては、常光さんの承認をいただきました）

植本 眞砂子様 皆様

2024.3.6

10度にならぬ寒い日が続いています。そんな中に温かなご支援を頂きました。本当にありがとうございます。21ネットワークの仲間の3月の頼りに地元小学校の学級だよりを同封しています。のと半島地震への関わり方と折々の報道について盛りこんでいます。見聞きするあれこれに泣けて、目尻が塩分にやられたのかザラつきヒリヒリします。

中島みゆきさんの ♪ 時代 ♪ をおなかの底から声を出して歌っています。フツフツとみなぎるものがあります。週明けには10度超えの日となりそう。またお便りします。ご自愛ください。

常光 利恵

守ろう！ 訪問介護、暮らしを支える命綱

～2023 年末から 2024 年 4 月までの介護保険をめぐる動き～

11 月 21 日に院内集会「このままでは保険“詐欺”になる～介護保険は崖っぷち」を開催（会報 120 号掲載）し、全国の仲間と運動を強化してきた。NPO 法人高齢社会をよくする女性の会は、11 月 22 日に武見厚生労働大臣あての要望書を大島事務次官に提出、12 月 2 日（土）には年末恒例「討ち入りシンポ」で「介護保険は老後を支える命綱～みんなで守り改悪阻止を！」を開催した。

最終的には予算折衝の中での判断という審議会無視の対応が行われ、厚生労働省は、12 月 7 日、利用者負担の 2 割負担拡大の 24 年度実施を断念し、懸案課題が次回改定まで先送りされた。

しかし、介護報酬の大幅アップが人材確保のためにも必要である観点から 12 月 14 日（木）「介護保険・障害報酬改定に対する共同声明」をケア社会をつくる会、認定 NPO 法人ウイメンズアクションネットワークと NPO 法人高齢社会をよくする女性の会、NPO 法人日本障害者協議会、きょうされんの 5 団体で発し、記者会見も行った。（当会も協賛団体）

年が明けて、1 月 22 日の介護給付費分科会で 2024 年 4 月からの介護報酬を全体では 1.59% 報酬引き上げる（物価上昇にも追いつかない）が、訪問介護はマイナス改定とするとされた。併せて、介護施設の人員配置基準を特定施設については、3：1 から 3：0.9 と切り下げることも示された。

直ちに、2 月 21 日までの「パブリックコメントに各自が意見を出す」という運動と共に、訪問介護報酬切り下げへの「緊急抗議声明」の賛同を求め、1 月 29 日までに 36 団体、2,663 人の賛同があり、2 月 1 日（木）に記者会見が行われた。その中で、厚生労働省が根拠としている「介護事業経営実態調査」の矛盾や現場の実態（ヘルパーの有効求人倍率が 15 倍以上、高齢化）を訴え、事業者や家族も抗議の声を上げた。このままでは、訪問介護は壊れてしまうという危機感から、「崖っぷちから突き落とされる介護保険～これではもたない在宅も施設も～」を 3 月 8 日（金）にオンライン併用の院内集会を緊急開催した。



YouTube 配信：<https://youtube.com/live/mOphKAcWfPo?feature=share>

上野千鶴子さんの趣旨説明に続き、

❖第 1 部 <厚生労働省との質疑応答>

事前に厚生労働省に質問書を送り、回答を得た。



右側の 5 人が厚生労働省の職員

それへの各現場当時者（小島美里：NPO 暮らしネットえん、伊藤みどり：ヘルパー国賠訴訟原告、関口江利子：社会福祉士、高口光子：元気が出る介護研究所）からの質問への厚労省の回答は、通り一遍で参加者から怒りの声も上がる中、小島美里さんは「これからは訪問介護はサ高住が標準になるといえることですか？」と厳しく指摘した。

❖第 2 部 <各分野からの報告>

訪問介護分野から 4 人、施設分野から 2 人、障がい分野から 3 人、家族会から 1 人の訴え、参加国会議員の発言が 5 人、最後に「抗議声明」を NPO 法人高齢社会をよくする女性の会の袖井孝子副理事長が読み上げ、集会を閉じた。その後の記者会見も多くの質問で時間切れとなった。



院内集会、会場風景（参議院議員会館 会議室）

■撤回まで粘り強く戦うことを確認

引き続き、国会対策も行い、次の行動を進めていくことを誓い合った。新聞報道「訪問介護事業所の 36% が赤字」の通り、高利益率は大手のみで、中小は報酬減で、一層苦境に立たされる。

3 月 15 日に開催された介護給付費分科会では、実施される報酬改定の検証の調査項目は規模別や地域別など事業の特性がわかる調査にするようとの注文が多く出た。（植本 眞砂子）



第 25 回 地域共生ケア全国ネットワーク研究交流フォーラムの プレフォーラム

大阪の「地域共生ケア」を考える～まちあるき・食べること・小さな居場所づくり～が、3月16日(土)に「いくのパーク」+オンラインで開催された。2025年2月頃に全国大会が大阪で開催される。

午後の部冒頭は、能登半島地震の被災地の福祉避難所への支援活動に参加した方々から、職員自身も被災しながらの福祉避難所の実情を切々と報告された。



基調講演は、このネットワークの呼びかけ人であり、「富山型共生型デイサービス」の実践者である惣万佳代子さん。(NPO 法人このゆびとーまれ理事長)

惣万佳代子さん ◆「富山型デイサービスと地域ケアのこれから」1993年7月「赤ちゃんからお年寄りまで、障がいがあっても無くても、誰もがいつでも利用できるデイサービス」として発足した。最初の利用者は、3歳の障がい児だった。その母親は、「この子を産んでから美容院に行ったことがない」と美容院に行って気持ちを豊かにした。

1997年に「富山県民間デイサービス連絡協議会」を発足させ、1999年に「宅老所・グループホーム全国ネットワーク」が発足し、全国から1000人が参加した。「小さいことはいいことだ。いい介護をしたい。地域密着」がキーワードとなった。

富山県での継続した取り組み(家族・教育・福祉のトライアングル連携会議など)の中で、「活動を続けていれば、制度が付いてくる」という実感、「制度が正しいのではなくて、その人のニーズが正しい」と制度を超えて支えることの方角を示された。

◆今なぜ共生型なのか、

①「65歳の壁」と言われる障がい者の高齢化問題、②8050問題が90-60-30問題になっている、③ひきこもりと④不登校が3・40年放置され制度がない(緊急に必要)、⑤人口減少が著しい(山間部・島)⑥医療的ケア児、⑦家族単位でケアプランを、⑧国際連合が地域共生社会を日本に勧告(支援学校を作るな、精神病院が多すぎる)

などが課題であり、共生ケアが当たり前の日本に世界になれば良いと提起。

「いい介護をしよう。いい仲間を作ろう。ともに生きよう」誰もが主役の町づくりを富山から引き続き発信していくと訴えられた。

活動報告では、

◆呉光現さん(NPO 法人聖公会生野センター)からは、①在日高齢者支援:食事会、障がい者生活支援をベースに介護保険の通所介護、②障がい者支援:知的障がいの青年の美術教室がきっかけ、「地域生活支援センターB型」展開、地域活動センターから生活介護へ、在日と日本人と障がい者が共に無理なく暮らせる地域活動を進める報告



◆石田義典さん(NPO 法人ちゅうぶ)は、1984年発足。人は1日に約70回の選択をしており、一生で200万回選択。日常生活に制限が加えられることの多い障がい者でも200万回の選択を実現できる社会づくりをめざして、自己選択・自己実現を人の力を借りて「自立生活」を行うことを中心に活動。街に出ていく取り組みや「迷わないなんぼ・バリアフリー地図づくり」など障がい当事者と健常者のごちゃまぜ運動、ハード・ソフト両面でのバリアフリーを訴えられた。

◆大井祐真さん(全盲の障がい当事者)の自立生活に向けた取り組みを勝井操さん(NPO 法人出発のなかまの会)がインタビュー形式で紹介した。

質疑応答では、オンライン参加の佐賀県の方からの一歩前に進めることへの困難性へのやり取りが印象的だった。(植本 真砂子)

国際女性年大阪連絡会 50 周年記念集会

とき:2024年 3 月9日(土) ところ: ドーンセンター 1F パフォーマンススペース

【第1部記念講演】 講師:大沢 真知子さん 「性暴力と男女不平等社会」
(日本女子大学教授)

(写真は日本女子大HPより)

講師の大沢真知子さんは、コロナ禍の後、NHK の性暴力に関するアンケート調査の作成及び分析に関わられました。今回、「性暴力」のない社会を目指すことの重要性と、性暴力をなくすため、私たち一人ひとりが取り組む必要性を熱く語られました。

(第2部にはミニコンサートがありました。誌面の都合上、割愛させていただきます)

1. コロナ禍の性暴力救済センター
「日赤なごやなごみ」の設立を活動

NHK の村山ディレクターを通じて、「日赤なごやなごみ」の創設者の一人長江先生を主査とする研究プロジェクトに参加した。「日赤なごやなごみ」について以下の紹介があった

①2016 年 1 月に開設され、日本で初めて救命救急センターを有する性暴力被害者のためのワンストップセンターである。②国や地方自治体からの資金援助を得て、24 時間 365 日性暴力被害救済の専門的知識を持つ看護師によって運営されている。司法や行政と連携し、被害直後に治療や緊急避妊処置の後に証拠の採取、婦人科の専門医による治療が行われている。また、カウンセリングなどを実施している。③スローガンは「ひとりで苦しまないで」、「あなたが悪いんじゃない」としている。

2. 性暴力被害者調査(NHK 性暴力被害調査)の概要

- ①2022 年 3 月、4 月に WEB 調査で、38,383 件(女性 91.3%、LGBTQ5.4%、男性 1.1%)の回答があった。
- ②加害者の分布は、配偶者・パートナー (元) 6.8%、配偶者以外の家族・親族 13.5%、それ以外の顔見知り 31.5%、知らない人 46.7% であり、半数以上の加害者は顔見知りであった。
- ③被害時の年齢は 10 歳未満 20.3%、10~19 歳 54.3%、20~29 歳 21.3%、30 歳以上 2.0%で、平均年齢は 15.1 歳である。若いほど情緒が不安定になり、不眠や希望が持てない、自己肯定感が低下し、無力感に苛まされるなどの深刻度が 30 歳以上の被害者よりも大きい。

3. 刑法改正とフラワーデモと司法の問題点

(1) 2017 年伊藤詩織氏「Black Box」出版にともない #Me Too が始まった。2019 年 4 件の性暴力に対して相次いで無罪判決がでたことに抗議するフラワーデモが始まり、2022 年五ノ井里奈さんの自衛隊訓練中のセクハラ事件やジャニーズ性加害事件が顕在化した。これら声を上げる被害者によって社会の性被害に対する見方が被害者よりになっている。

(2) 刑法改正、2017 年および 2023 年。

2017 年、「日本の強姦罪は強盗の罪より軽い」といわれた刑法は、①強姦罪、準強姦罪から強制性交、準わいせつ罪、準強制性交罪へと罪名変更、②男性も対象、③法定刑が 3 年から 5 年に延長等の改定があった。

2023 年、刑法改正で、罪名が「不同意性交罪」に変わった。①性交同意年齢を 13 歳から 15 歳に延長し、子どもへの犯罪防止のための罪名が新設された。③不同意性交罪の成立要件を規定した。

4. 性暴力をもたらしてきた背後には、それを容認する社会規範がある

被害に遭うのは被害者に落ち度があったという「強姦神話」によって、性犯罪や虐待に対して極めて寛容な国になっている。現在は、男性に特権を与えている男女不平等(家父長制)社会と言える。つまり、性暴力を「男性特権」として容認する社会構造がある。

5. 最後に——性暴力を可視化するために

最後に、性暴力を許さない男女平等社会は必須要件であり、その上で性暴力を可視化するための社会規範と制度改革が必要である、として講演を終られた。(山中 理恵子)

フォーラム 労働・社会政策・ジェンダー主催の2023年度の3回の例会報告

「少子化対策とフェミニズムの“微妙”な関係」

「異次元の少子化対策」を検証する

当会と緊密なネットワークを築いている「フォーラム労働・社会政策・ジェンダー」の催しに何人かの会員が連続して参加されていますが、2023年度の例会報告を3回まとめて報告します。

2023年度テーマは「少子化対策とフェミニズムの“微妙”な関係」です。開催の趣旨は、～子育て支援や仕事との両立支援を「少子化対策」とすることのそもそもの問題性、マイナンバー制度の強引な推進や大軍拡予算との結びつき、その背景にある新自由主義の新たな展開と「異次元の少子化対策」との関係等、日本のフェミニズムは今また新たな問題と課題に直面しているのではないのでしょうか～です。「検証・異次元の少子化対策」3回の実施概要は、以下の通り（19～21時）で、オンライン形式でした。

開催日	テーマ	報告者	コメンテーター
① 11/7 (火)	「こども保険」構想批判	北 明美 (福井県立大学 名誉教授)	萩原 久美子 (桃山学院大学)
② 2/9 (金)	現金給付・現物給付と フェミニズム	北 明美 (福井県立大学 名誉教授)	蓑輪 明子 (名城大学)
③ 3/18 (月)	シンポジウム 「少子化対策」と フェミニズム	北 明美 (福井県立大学 名誉教授)	シンポジスト 白崎 朝子 (介護福祉士・ ライター) 蓑輪 明子 (名城大学) 広井多鶴子 (実践女子大学)

<子育て支援をなぜ市場化するのか?!>

3回とも、岸田政権の「異次元の少子化対策」の正体について、わかりやすい解説・分析と多彩な視点からのコメントで、21時を過ぎても熱い討議が展開されました。

具体的には、「子ども・子育て支援金」のラクリ＝すべての公的医療保険の20歳以上の加入者から追加保険料（1人月平均500円）を徴収し、これを「こども金庫」という名の特別会計に繰り入れ、これまで各子育て支援策ごとにバラバラに使われてきた既存の財源（公費と子ども・子育て拠出金、雇用保険の育児休業給付該当保険料等）もこの金庫に集中し、そこから一元的に各施策の費用が支出されていくという施策の検証です。

なぜ、子育て支援を税ではなく、社会保険方式にするのか、それがどのように格差拡大や商業化に結びついてしまうのか、その危機感が共有される討議でした。

負担増になるかならないかという次元を超えた深刻な問題が子育て支援、児童福祉の分野に起きようとしていること、それは日本のフェミニズム、ジェンダー平等政策と社会保障の関係を根本から問う決定的な岐路でもあることが問題提起されました。

この連続講座は、毎回非常に詳しい「報告書」に纏められています。誰でも無料で入手できます。第1回・第2回・第3回とも下記からお申込みください。 <https://x.gd/011HU>

(伍賀 偕子)

研究会だより

✦介護問題研究会✦

23 年度介護問題研究会の活動は、前年度から引き続き、第 9 期(2024.4～)介護保険事業計画策定、介護保険制度の改定に関する審議会等の動きについて、情報を共有し理解を深め、会としての意見表明につながる取組みを中心に据えて行うこととしました。併せて、①全国大会に向けて各分科会の事前学習会の実施 ②福祉施設等の見学 ③自治体の審議会等の傍聴の 3 点を加え、年度当初に取り組み目標として掲げ、すすめることとしました。幾分、欲張った感がありましたが、強い思いもあり目標立てをしました。しかし、残念ながら②や③については、実行するに至りませんでした。

この一年は、特に介護保険のこれからを討議する中で、研究会内の学びにとどまらず、国の審議経過を見極め、その都度意思表示をしてきましたが、心強いことに会のメンバーの中に、ご自身の居住地域において、積極的に動かれ、地域の方々とともに今回の改定に対し 2 月にシンポジウムを開催されるなど、更なる活動を展開されました。また、あるメンバーからは、介問研で実行できなかった傍聴について、ご本人が所属されている別の介護関係団体の活動状況で、当会の参考になればと情報を提供いただくなど、広がりのある交流を深めさせていただきました。

最後に介護給付費分科会で介護報酬改定案が審議・了承され、主要サービスの中で訪問介護のみ、基本報酬が引き下げられるという逆行する結果に、これからも地域とともに声を上げ、邁進することを痛感した一年でした。
(大平 喜代江)

研究会のお問い合わせ先：事務局 E-mail : wabasosaka2024@gmail.com

✦認知症勉強会✦

2023 年度最後の勉強会は、2 月 7 日 (水)、調理室で開催しました。参加者は 11 名。今回のテーマは、①認知症の新薬レカネマブの報道のなされ方について、お 2 人のドクターの見解を知り、あらためてメディアリテラシー*を高めることの大切さを学びました。

*メディアを利用する技術や、伝えられた内容を分析する能力のこと

長尾和宏 Dr.の見解 (ホームページより)	宮岡 等 Dr. (北里大学名誉教授/精神科)
1) 米国の承認に追随 2) メディアは効果ばかり強調 3) 専門家も勧める人しか出ない 4) 副作用情報はあまりなし 5) 高額 (390 万円)	認知症になっても自分に使用してほしくない理由 1) 本当に臨床的に意義のある効果があるのか 2) 安全性：効果に比して有害事象が高頻度 3) 高価 http://www.yuki-enishi.com/ninchi/ninchi-78.pdf

- ②「認知症勉強会のあゆみ」を資料として、今までを振り返り、これからは繋ぐ話し合い。
- ③ 認知症勉強会カフェ (古田・田代の座長による最終回なのでお別れ茶話会)
- ④災害時のトイレについて
 - ・阪神淡路大地震から 30 年近く経つのに、今回の能登半島地震の避難所のトイレ事情がひどく、少しも進化していない災害時のトイレについて話し合う。当会会報 58 号記載の記事「あなたは我慢できますか？ 2・3 時間待ちのトイレの行列に！(三浦久子記)」も参照した。今回をもって古田・田代が座長の認知症勉強会は終了いたしました。16 年の長きに亘って当勉強会にご参加くださった皆さま、有難うございました。(古田 洋子・田代 眞朱子)

研究会だより

✦シニアライフ・サポート倶楽部✦

今年度最後のシニアサポート倶楽部の勉強会を3月13日（水）に開催しました。2023年7月にメンバーの村田孝子さん（88歳）を講師に「自分の身体は自ら守る」を実践するために体操で汗を流しました。

10月21・22日の「高齢社会をよくする女性の会全国大会 in 大阪」に向けて勉強会メンバー全員が大会運営、その後の報告集作成などに取り組んだため、9月、11月、1月の勉強会は実施できませんでした。最後の勉強会は、終活支援で第1回樋口恵子賞を受賞したNPO法人エンディングセンター理事長の井上治代さんの講演：おひとりさま時代の「死後の福祉」「葬送の社会化」から、その内容を植本代表に紹介していただきました。

日本のお墓の特徴は①家族墓 ②継承墓 ③墓地許可制 ④使用权 ⑤石の墓 ⑥葬儀やその後の年忌の9割以上は仏教式とのことです。しかし1990年代からお墓の傾向が世帯構成の変化によってそれまでとは異なってきているとのことです。散骨や樹木葬が登場し、家族継承から「個人化」へ、墓を核とした「結縁」合同祭祀で単身・無縁社会を支えるシステムがあることを知りました。

今までの法律や福祉は死者を対象としていませんでした。「遺骨はひとりでお墓に入れない」…参加者がそれぞれの思い・意見を自由に話し合い、死前後の必要な事を知り、改めて準備の大事さを考えました。（津山好子）

【運営委員会だより】

【第7回運営委員会】 2023年12月9日（土）ドーンセンター

①後援、助成して下さった団体（8団体）に「実施報告書」提出済。②会報第120号（全国大会報告号）16頁だて発行・発送12/15予定③「東京の会」会報（全国大会特集号）着信。実行委員会で委員に配布11/18④東京の会の討ち入りシンポ報告 テーマ：「介護保険は老後を支える命綱みんなで守り 改悪阻止を！」に植本代表、登壇者として参加12/2（土）⑤全国大会会計報告 年度末に閉める。⑥年度内の例会開催について⑦「介護報酬改定に関する緊急声明」への賛同を確認

【第8回運営委員会】 2024年1月13日（土）ドーンセンター

①会報第120号発送、全国大会登壇者の皆さまにも送付済（各3部）12/15 ②全国大会 in 大阪『報告集』編集進捗状況 1/19印刷入稿予定③3/2の例会について、案内ハガキを2月初旬発送④葉書には総会に向けた運営委員の募集も掲載⑤能登半島地震のお見舞いについて、東京の会の理事で全国大会にも出席頂いた常光さんの団体に情報を確認して支援することとする

【第9回運営委員会】 2024年2月10日（土）ドーンセンター

①大阪府共同募金会（河原林富美福祉基金）助成決定通知が届き、2/13入金される予定②1/27当会2代目事務局長の森俊江さんご逝去に会として供花を行う③実行委員会開催（解散宣言）について④事務局移転に伴う課題事項、2カ所について実地見学後に3月の運営委員会で決定する。電話は持たず、メール対応のみとする⑤総会に向けての活動方針などについて⑥全国大会『報告集』の頒布価格を500円とする⑦能登半島地震のお見舞い、東北の震災時の対応に準じて行う。

【第10回運営委員会】 2024年3月9日（土）ドーンセンター

①『報告集』発送の際、次年度運営委員募集文を同封②トークセッション参加者19名 3/2③全国大会 in 大阪実行委員会を開催し解散とする。3/23（土）午前10時～④国際女性年大阪連絡会50周年記念集会開催。当会から7名加予定3/9⑤5/25（土）11時～総会 午後の講演会について、社会保障とケア全体を語る方をお願いする⑥2024年度の活動方針・活動計画について⑦2024年度予算について⑧事務局の住所地を「SORA」とし、郵便受けと棚をレンタルすることに決定⑨会報121号総会議案書同送、発行・発送日は4/24

重要なお知らせ： 4月1日付けで事務局が移転しました。新住所は表紙のタイトル欄をご覧ください



2024年度定時総会 & 講演会 (一般公開)

定時総会

❖とき：2024年5月25日(土) 11時～12時 ドーンセンター 4F 大会議室①

講演会

ケア中心社会に向けた社会政策とは

—「全世代型社会保障」構想はどのように問題か

人は、生まれてから生を全うするまでケアなしでは生きられません。でも、ケアとそれを支える社会保障制度は、十分と言えるでしょうか？ 真の世代間連帯をどう作っていくのか、一緒に考えましょう！ ぜひ、ご参加ください。お待ちしております。

- ❖ とき：13時30分～16時
- ❖ ところ：ドーンセンター 4F 大会議室① (総会と同じ)
- ❖ 講師：北 明美さん (福井県立大学名誉教授・社会政策)
- ❖ 参加費：会員 500円 会員外 1,000円
- ❖ 申込先：高齢社会をよくする女性の会・大阪 事務局 wabasosaka2024@gmail.com (詳しくは、チラシ、ホームページをご覧ください)



【運営委員会日程】

- 5月11日(土) 運営委員会は原則として
- 6月15日(土) 毎月第2土曜日の午前
- 7月13日(土) 10時～12時
- 8月10日(土) ドーンセンターの
- 中会議室他で開催

※会員はオブザーバー(議決権はない)としていつでも運営委員会に参加していただけます。運営委員会って、どんな事してるの？興味のある方は、ぜひ見学にいらして下さい。お待ちしております。

◆新入会員さんです

西尾 康子 野田三千子
松本 博子 森實 啓子
山内ます子 西野 千代

◆ご寄附いただきました

植本 眞砂子

昨年度は、当会の30周年と全国大会開催という大きなイベントがあり、改めて、会の先達の方々の意識の高さと行動力に感服しました。やはり、「レジェンド」はすごい！カッコいい！と思いました。その思いとこれまでの成果を引き継ぎ、さらに発展するためにも今後は世代交代が課題となります。特に40～60代の会員獲得をめざしたいです。しかし、どうしたらよいか：何か効果的な良い提案があれば教えてください。(足立須香)

編集後記

会費・賛助金ご協力をお願い

- ◆ 年会費(4,000円)未納の方に振替郵便用紙を同封いたしております。行き違いのありました時はご容赦下さい。
- ◆ 会員及び会員外からも活動賛助金1口5,000円をお受けしております。(会則7条)ご協力ください。
- ◆ 郵便振替口座 00980-1-17848 高齢社会をよくする女性の会・大阪
- ◆ 郵便貯金口座 ゆうちょ銀行 ○九九店 当座預金 17848 受取人名 コウレイシヤカイフヨクスル ジョセイノカイ オオサカ

本誌の記事を転載する場合は事務局へご連絡ください。